

連携中枢都市宣言

福岡県北東部の17市町（北九州市、直方市、行橋市、豊前市、中間市、宮若市、芦屋町、水巻町、岡垣町、遠賀町、小竹町、鞍手町、香春町、苅田町、みやこ町、上毛町、築上町）は、北九州市の中央部を境に、響灘に面した「筑前の国」と周防灘に面した「豊前の国」に分れていた歴史があるものの、近年は北九州市を扇の中心として一体的な経済圏・生活圏を形成し発展してきました。

しかしながら、本圏域においても、急速な少子高齢化の進展などに伴い、今後、継続的に人口が減少することが予想されます。

このため、圏域の市町がそれぞれの資源や機能の効率的な活用を図り、広域による行政展開のメリットを最大限引き出しながら、圏域全体の活性化と魅力ある圏域の形成を図っていく必要があります。

このようなことから、北九州市は、国が推進する連携中枢都市圏構想のもと、本圏域の中核都市として、連携中枢都市圏「北九州都市圏域」を形成していくことを、ここに宣言します。

- 一 北九州市は、連携中枢都市圏「北九州都市圏域」の中核都市として、圏域の将来像を描き、魅力と活力ある圏域形成を目指します。
- 一 北九州市は、コンパクト化とネットワーク化の観点から、拠点性の一層の強化を図るとともに、経済成長を牽引し、圏域全体の活性化を目指します。
- 一 北九州市は、近隣市町との強力な連携と役割分担のもと、広域的な観点から住民サービスの向上を目指します。

平成27年12月24日

北九州市長 北橋 健浩